

広げよう! 建設国保への賛同署名

東京土建では毎年、都議会議員の皆さんに、「建設国民健康保険組合への東京都補助金についての賛同署名」を取り組んでいます。

平成30年度(2018年度)の東京都予算編成に向けては、今年が都議会議員選挙が行なわれることから、例年6月からの取り組みを5月に前倒しし候補者の方も含めて要請しました。

賛同署名をいただいた議員は以下の皆さん(9月1日現在、敬称略)です。今後必要



品川支部の関口副委員長(右)、小林副委員長が白石都議に要請書を渡す



中野支部は長浜委員長(前列右)を先頭に荒木都議(前列左、5月24日撮影当時は候補者)からも署名をいただきました

【葛飾区】米川大二郎(都)、和泉なおみ(共)、舟坂ちかお(自)。

【台東区】中山ひろゆき(都)、【墨田区】加藤雅之(公)、川松真一朗(自)。

【江戸川区】田の上いくこ(都)、河野ゆりえ(共)。

【板橋区】とくとめ通信(共)、宮瀬英治(民)。

【豊島区】米倉春奈(共)。

【島嶼部】三宅正彦(自)。

【品川区】伊藤こういち(公)、白石たみお(共)。

【大田区】藤井一(公)、遠藤守(公)、藤田りょう子(共)、神林茂自、鈴木章浩(自)。

【世田谷区】福島りえ(都)、木村基成(都)、栗林のり子(公)、里吉ゆみ(共)、三宅茂樹(自)、山口拓(民)、小松大祐自、大場康宣(無)。

【新宿区】大山とも子(共)、古城まさお(公)、秋田一郎(自)。

【中野区】荒木ちほる(都)、高倉良生(公)、西沢けいた(民)。

【三鷹市】中村ひろし(民)。

【立川市】清水孝治(自)。

【府中市】小山くみこ(都)。

【八王子市】両角みのる(都)、清水ひで子(共)、伊藤しょうこ(自)。



除去土壌の仮置き場。国は2~3年で何とかすると言っていたが...

新宿 ナマズをアピール 区防災イベントで実演

【新宿・大工・隅田祐太郎】昨年度から始まった新宿区主催の防災イベント「しんじゅく防災フェスタ」が9月3日、新宿戸山公園にて開催されました。区としても減災防災にとも力を入れている事から、互いの要求として昨年の第一回目から参加する事となりました。我々チームNAMAZUの活動の場として区民にアピールできる絶好の舞台です。

チームNAMAZUの出し物は3つ。以前、墨田支部の防災チーム「HUMMARS」から学んだ「倒壊家屋の救助演習」を新宿支部流にアレンジしたものをやりました。実際に現場で出た廃材のみで作った倒壊家屋は、とてもリアルティがあるらしく区の職員や区民から多大な評価をいただき



倒壊家屋からの救助演習に取り組む新宿支部チームNAMAZUの仲間

きました。2つ目は土嚢の作り方、一輪車を使った土嚢の運び方の体験、そして3つ目は工作教室です。災害時に役立つ万能台を製作しました。

「チームNAMAZU」の存在を存分にアピールし、地域から頼られる地場職人として職域防衛にも繋がることを期待します。

住民交流に貢献 気仙沼で復興住宅デー

葛飾



「いいモノが当たるといいな」

【葛飾・書記・沼幸通信】第5回目となる東北復興支援住宅デーを、気仙沼市内で開催しました。今年は、新しく住宅が建てられ、被災した方々が移住した地域で開催をしました。

開催地の気仙沼市松崎鶴巻地区は、9月16日に鶴巻二区自治会が新たに発足します。

た方々が移住した地域で開催をしました。

多摩西北 公契約でシンポ 自治体の課長も参加

【多摩西部・書記・堀口利夫】全建総連東京都連傘下の7組で構成する「多摩西北」条約を推進する学習シンポを開催しました。

建設には武田さんも携わりました。震災前より工事売上が8分の1に減ったとのことで、震災での仕事減は何とも思わないと語ってくれました。

千立米の汚染土壌があるそうです。「地震は仕方ないが、原発被害は人が起こしたものだ。浪江町はじめ福島第一原発付近の人は自分の街に帰りたいと思っているよ」と武田さん。

しかし負けてはいません。今年2月に、全建総連本

宮の組合員が結集し、村道脇の広場に伝統建築「東屋」を施工しました。組合員の技が村の景観に活かされる」という武田さんの誇らしい声に勇気づけられた本田さんでした。

た。一方、放射能被害は深刻。今も除去された土壌が、街のあちこちに「仮置き」されています。国は2~3年で何とかすると言いましたが、そのままの状態、大玉村にも

【江戸川・書記・中村安彦】一之江北分会長の本田光則さんは福島県本宮市の出身。今夏、帰郷の際に東日本大震災からの復興の生の声を知りたいと全建総連本宮を訪ね、副理事長の武田宗秀さんがインタビューに応じてくださいました。

福島生の声を聞く 江戸川の本田光則さん

葛飾支部が開催する住宅デーを前祝として行きたいと要望をいただき、こちらで開催する運びとなりました。有志の方々の支援で、お祝いとして来場者へくじ引きも用意。上棟式のお菓子も増量し、例年に比べ力が入った内容となりました。1人1回のくじ引きは好評で、もらった景品をしっかりと抱え、落としても転んでも絶対自分で持つと譲らない子もいました。鶴巻二区自治会の会長からは、住民同士の交流にもなったと喜んでいただきました。新たな自治会で、復興の象徴となるような活発な取り組みができるように、願いをこめた住宅デーとなりました。開催しました。

参加者は110人で、立川・昭島・東大和・青梅の各市の担当課長や各党派市議会議員(7市12人)、地元立川の建設業協会、三多摩労連、自治労立川市職など多方面からの出席をえて、古川景一弁護士士の講演を中心に学習しました。

古川さんは「公共工事は安ければいいという時代は終わった。ササレの品質の確保、公正競争の実現、賃金の下支え、活力のある地域社会の実現」が公契約条例によって確保されると今日の意義を強調しました。

参加した自治体担当者からは「公契約のメリット、デメリットが一定明確となった」、また議員からは「業界団体なども意見交換して進めていければ」と貴重な意見が寄せられました。